



経済発展と資本—ベトナム滞在で考えたこと

京都大学留学生センター教授(元国際通貨研究所経済調査部長) 森 純一

ベトナムでの長期にわたる資本市場調査に区切りを付けて、日本に帰国した。ハノイの黄色い数階建ての建物と大木の並木、「ビービー」と一日中聞こえてくる車やバイクのクラクションの騒音のなかで何ヶ月かを過ごした。毎日、風呂場にあるようなベトナム流の小さな椅子に座り、低いテーブルの上で麺やご飯を食べた生活が懐かしい。ハノイから帰って、東京という街に戻るとその規模の大きさに改めて驚かされる。規模だけでは無論ない。整然として空に伸びる高層ビル、無数と言ってよい人々を運ぶことができる公共交通機関、食事もピカピカに磨かれた食器やテーブルで食べることができる。

ハノイにいるといくつもの「なぜ」が浮かんでくるものである。なぜ、ベトナムの人々は朝から日本人と同じように働いているのに日本人の一人あたり GNI(注1)の50分の1しか、付加価値を作ることが出来ないのだろうか。

世界銀行の統計では2002年の日本人の一人あたり GNIは33550ドル、一方のベトナムは430ドルである。

なぜ、ベトナムの学生は日本の学生と同じように勉強をしているように見えるのに、この学生達が就職をするとその給与は日本の新卒者の20分の1になってしまうのだろうか。日本人の新卒の給与が約1800ドルとすれば、ベトナムの公務員給与は50-150ドルが相場である。ベトナムの多くの公務員はそれでは食えないので、内職に励み、汚職も頻繁である。

なぜこのように両国の一人あたり GDP に大きな差がどこから出てくるのだろうかという素朴な疑問をベトナム滞在中に幾度となく考えた。もちろんそれには歴史的な要因、社会体制など、いろいろな要因がある。ただ現地で見ているところ、その大きな理由は資本の不足ではないかと思う。

毎日の生活のなかで、資本の存在を日本人はほとんど意識しない。たとえば多くの日本人は毎日の通勤電車を当たり前のことだと思っている。ベトナムには通勤電車はない。だから人々はバイクに乗って大挙して通勤をする。道路は喧噪に包まれ、交通渋滞が起きる。街はきわめて生き生きと見えるが、その効率はきわめて低い。バイクでの通勤の平均時速はおそらく毎時10キロぐらいだろう。交通事故も多い。東京の電車で新聞を読みながら毎日数十キロを通勤するのはだいぶ効率が違う。日本では当たり前の通勤電車を作るだけの余裕がベトナムにはないのだ。交通機関という公共財に投下された資

本の恩恵を日本にいる我々は知らない間に受けているわけである。

もちろん資本は公共財のみでない。通信、電力、工場、高度に情報化されたオフィスなど、我々はあらゆる形で蓄積された資本の恩恵を受け、日本の人々は高い生産性を上げていることになる。

ベトナムなどの途上国が順調な経済発展を遂げていくためには、優秀な労働力を生かすための資本が必要である。そのためには何をすべきか。多くのことが可能だろう。たとえば国内短期金融市場の整備、長期資本市場の創設、などなどを通じて国内貯蓄の蓄積と有効な利用を図ることができる。我が国は今、アジア債券市場イニシアティブ (ABMI) でアジアにおける債券市場の振興のための技術支援を行っている。アジアの経済発展をさらに堅固なものとするために、意義のある試みだということを実感したベトナム滞在だった。

(注 1) Gross National Income

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2004 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-Chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>